

作物名：水稲

病害虫名：いもち病（稲熱病）（病原：Pyricularia grisea）



進行型病斑

停滞型病斑

褐点型病斑

ずりこみ症状

1 被害の特徴と診断のポイント

葉では、初め円形～楕円形で灰緑色水浸状の病斑を生じ、のちに長紡錘形ないし菱形で中央部灰白色、周縁褐色の病斑となる。穂では、穂首、みご、穂軸、枝梗に暗褐色の病斑を生じ、病斑部から先端は萎凋枯死して白穂となる。籾では、護穎が侵されると、初め灰緑色、のちに暗褐変し、穎が侵されるとはじめ蒼白色、のちに灰白色となって枯死する。葉節が侵されると、灰褐色で周縁部は黄褐色の大きな病斑となる。節が侵されると、黒変乾燥して折れやすくなる。箱育苗では、苗の基部が暗褐変し、下葉に病斑が現れる場合と、1.5葉期以降心葉が急速に萎凋枯死する場合とがある。

2 伝染源及び伝染方法

被害わらや汚染籾が翌年の第一次伝染源となる。

汚染籾を播くと苗床で感染・発病する。感染苗あるいは罹病苗は、本田の葉いもちの伝染源となる。被害わらは気温が上昇し、降雨にあうと、病斑上に分生子を形成する。これが風雨によって飛散し、苗いもちや葉いもちを起こす。

葉いもち病斑上に形成された分生子が、穂いもちの伝染源となる。

本菌は葉や葉節、穂首、籾ではおもに表皮を貫通して侵入するが、みご、穂軸、枝梗では気孔からも侵入する。分生子の飛散は夜中から明け方にかけて多い。

3 発病・伝染好適条件

低温、多雨、日照不足、多窒素で発病が助長される。

4 防除方法

(1) 耕種的防除

①病害が発生したほ場及び周辺ほ場からは採種しない。②塩水選の実施。

(2) 化学的防除

育苗箱施用剤、水面施用剤、茎葉散布剤等の利用。

(3) その他防除

温湯消毒など、種子消毒の確実な実施。

5 出典

(1) 参考文献：宮城の稲作指導指針【基本編】

日本植物病害大事典（全国農村教育協会）

(2) 写真：宮城県病害虫防除所撮影